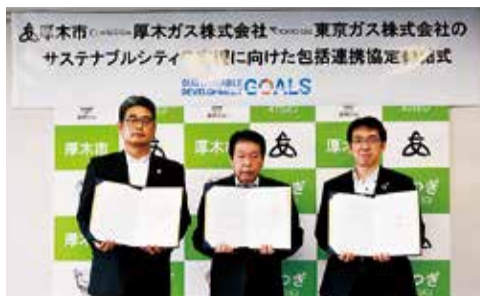


カーボンニュートラルの実現に向けて 持続可能なまちを目指し3者で協定を締結



地球環境を考えたまちづくりを進めていく

小林市長は「同じ目標や思いを持つ2者と連携ができてとても心強い。長い道のりだが目標達成に向けて協力していきたい」と話しました。市では他にも、再生可能エネルギーの普及促進やごみの減量・資源化など、地球温暖化防止の取り組みを進めています。

市は昨年2月、2050年までに二酸化炭素排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を表明しました。その実現に向け5月に、厚木ガス株式会社、東京ガス株式会社と3者で包括連携協定を結びました。

協定は、脱炭素社会に関する技術の活用や災害時の地域防災力の向上などにより、持続可能なまちの実現を目指す内容です。

太公望でにぎわう初夏の風物詩 相模川などでアユ釣りが解禁

初夏から秋にかけて川ににぎわいをもたらすアユ釣りが、相模川などで6月1日に解禁されました。この日を待ちわびていた太公望たちは、長い釣りざおを振りアユを釣り上げていました。



体長5~20センチほどのアユを釣り上げる太公望たち

相模川は、全国でも有数のアユ釣りの名所です。今年も例年よりも多い、約800万匹の遡上(せじょう)が確認されています。毎年解禁日に来ているという深瀬悦孝さん(68・戸室)は「解禁日はたくさんアユが釣れる。これから水温が高くなると、サイズが大きくなるので楽しみ」と笑顔で話しました。相模川水系のアユ釣りは10月14日まで楽しめます。



地元の野菜や果物を販売 森の里で朝市がスタート

買物に来た宮原征子さん(79・森の里)は「遠くまで外出するのが大変なので、地元で朝市が開催されるのがあるがたい。安心な地元産の野菜が買えてうれしい」と話しました。森の里朝市は11月下旬まで第2・4土曜日に開催されます。



愛称の「森もり市」は公募で決定

地域で生産した農産物などを販売する森の里朝市「森もり市」が5月、若宮公園西駐車場が始まりました。キャベツやタケノコ、タマネギ、青梅などの新鮮な野菜や果物、苗などが並び、約200人の来場者でにぎわいました。森もり市は、高齢化が進んだ地域での買物支援しようと地元の有志が企画。農業振興やコミュニティづくりによる地域活性化への願いも込められています。

学生の視点でまちに活気を にぎわいアドベンチャー隊の任命式を開催

市内5大学の学生が市街地の活性化に取り組む「あつぎにぎわいアドベンチャー隊」の任命式を開催し、小林市長が入隊する学生に任命書を手渡しました。あつぎにぎわいアドベンチャー隊は、商店会や自治会で組織する「まちなか活性化プロジェクト」が市街地のにぎわいを創出するため2008年に発足。昨年度は、商業施設と協力したハロウィンやクリスマスイベントの開催、SNSを使った市内店舗・話題スポットの紹介などで市の魅力を発信しました。メンバーの中山陽平さん(東京工芸大学4年)は「今年は多くのイベントに参加して、仲間と協力しながら厚木のまちを盛り上げたい」と意気込みました。



今年は45人の学生が活動する



第9回 みんなで! SDGs

持続可能な社会を目指す世界共通の目標「SDGs」。その達成のために17の目標を知り、できることから実践しませんか。

目標6 安全な水とトイレを世界中に
世界では、数十億人が安全に管理された水やトイレを利用できていません。誰もが安全な水を利用できるように、限りある水資源を守りましょう。



できる取り組みは?



節水はCO2削減にもつながる

日頃から節水を心掛ける

日本は、世界の中でも水の使用量が多い国です。風呂の残り湯を洗濯に使う、シャワーの時間を減らす、小まめに蛇口を閉めるなど、節水を心掛けましょう。

川や海などの水資源を守るために

食器を洗う前に油汚れを拭き取る、野菜の切りくずを排水溝に流さないなど、家庭での取り組みが川や海の水質汚濁を防ぎます。限りある水資源を守るためには、一人一人の意識が大切です。

県と周辺5市町村合同の水防演習を、5月に相模川の三川合流点で実施しました。川の氾濫を想定した演習には700人が参加。消防士や消防団員らが訓練を披露し、水防への理解を呼び掛けました。

相模川といえば、3年前の台風を思い出します。惨事は免れましたが、報道で目にした痛ましい光景が身近でも起こり得ると実感しました。氾濫対策は、一級河川を管理する



市長 小林 孝良



黒岩祐治知事らと演習を視察

を施す事業所などへの補助金を新設。雨水対策として市街地周辺へ貯留管を整備する他、止水板を設置する個人などへの補助金も設けました。

夏は川のレジャーが盛んな季節です。一方で、台風や豪雨による水害のリスクは高まります。災害から命や財産を守るため、皆さんもハザードマップの確認や危険時の早期避難など、水に関する災害への意識をぜひ高めてください。

県に河床整理や樹林化対策を要請していただきます。市で管理する準用河川・恩曾川では同様の対策に加え、氾濫危険・避難判断の水位を設定。流域の皆さんが、身の安全を判断できる環境づくりに着手しています。浸水対策も強化し、対策工事も